

卒後研修委員会

指導医、研修医との

交流会を開催して

卒後研修担当理事 西平綾子

平成16年度から新卒後研修制度が開始されました。この新卒後研修制度ではプライマリ・ケアが重視されている点から、診療所医師等による研修医の指導（地域医療保健研修）もプログラムの中含まれております。北区医師会では病診連携の一つとして北区内の研修指定病院（北野病院、済生会中津病院、住友病院）の研修医の地域医療研修に積極的にかかわってきました。昨年度までこの卒後研修担当理事を務められた片岡晃哉先生に代わり今年度より卒後研修担当理事をさせて頂く事になりました。私自身、平成16年卒で、新卒後研修制度の第1期生であります。新しい制度へ移行し病院、指導医の先生方も研修医の扱いに試行錯誤されている中、私は研修途中で妊娠、出産を迎える事になり、かなりイレギュラー対応で研修先の病院、指

導医の先生方の手を煩わせてしまったと思います。その当時の指導医の先生方の苦勞を思うと本当に頭の下がる思いです。

北区医師会で毎年開催している指導医、研修医との「交流会」は府医で開かれた指導医と研修医の交歓会を参考に平成19年度から開催されています。新型コロナウイルス感染症の影響で、昨年度に引き続き開催が危ぶまれましたが、丁度、第7波が収束した時期となり、無事開催することができました。令和4年10月15日（土）、アンピールホテル大阪（山西福祉記念会館）にて、第183回学術講演会（大阪府済生会中津病院消化器内科主任部長 岡田明彦先生『GERDと鑑別すべき疾患エトセトラ』の後、研修医、病院の指導医、診療所の指導医が集まり開催されました。今年度は研修医、指導医合わせて40名の参加がありました。

当日の出席者（敬称略）40名参加

北区医師会長 …… 本出席

研修医 …… 重田祐衣、池田裕亮、大倉千明、小田原洋一、堀創馬、渡邊元貴、赤津希海、篠原有紀子、丹賀康太郎、畑

山安佳里（以上、北野病院）

上江田基宏、楠見恭未、宋知樹、前田翔一郎、田中健太、福井真衣果、筒井竣亮、柳川博斗、長谷川裕（以上、住友病院）

中澤風香、青森大輝、井上誠子、井上裕加里、大西創平、木戸文華、清水優人、福富景果、増井伸祥、山根侑里子（以上、大阪府済生会中津病院）

病院指導医 …… 塚本達雄（北野病院）藤堂義人（北野病院医師卒後教育センター）山本浩司（住友病院）安井良則（大阪府済生会中津病院）

診療所指導医 …… 米田円（米田内科胃腸科）西平綾子（にしひら内科クリニック）澤田宏子（澤田内科医院）片岡晃哉（兵田クリニック）大原裕彦（大原クリニック）岡田明彦（大阪府済生会中津病院）

「交流会」では各病院の研修医代表1名ずつに地域医療研修の報告を、スライドを用いて発表して頂きました。非常にしつ

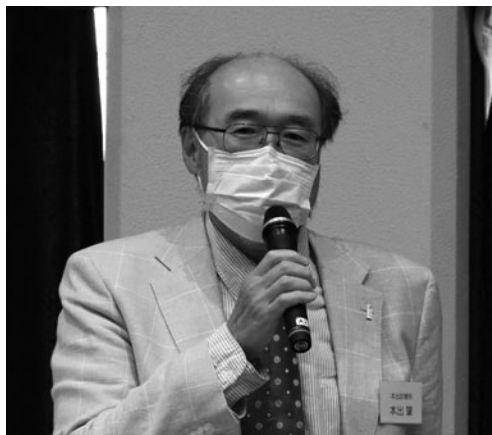
かりとした内容で研修医の先生方がそれぞれに診療所や地域の病院で色々と学ばれた様子が伺えました。コロナ禍になる前は、研修医の発表後、立食パーティー形式で歓談をしておりましたが、今年度も会場での食事提供は無くし、研修医全員に一人ずつコメントを頂く形式をとりました。病院指導医や診療所指導医からもコメントがあり、最後は研修医と指導医で記念撮影を行い、会を終了としました。今年度より卒後研修委員を担当させて頂き、「交流会」へも初参加でしたが、北区医師会長をはじめ医師会の役員、病院の指導医の先生方、医師会事務局の皆様をサポート頂き無事開催できましたことを感謝致します。

北区医師会では日医、府医主催で開催されております「指導医のための教育ワークショップ」の参加費の半額を負担しております。また、診療所での研修医の受け入れは週1回×1か月というパターンだけでなく、月に1回だけといった色々なパターンがあります。当院も3年前から研修医の受け入れを行っており、どんな研修内容にしたらよいのかまだまだ手探り状態などところはありますが、若い研修医の先生方との会話を楽しみながら診療しております。コロナ禍で日々の診療に大変な時期ではありますが、これからも北区医師会の研修医に対する地域医療研修にできるだけ多くの医師会員の参加をお願いできたらと思います。

指導医・研修医との「交流会」

日時：令和4年10月15日(土)14:00～

場所：アンピールホテル大阪 3階 ホール



指導医・研修医との「交流会」

日時：令和4年10月15日(土)14:00～

場所：アンピールホテル大阪 3階 ホール



指導医・研修医との「交流会」

日時：令和4年10月15日(土)14:00～

場所：アンピールホテル大阪 3階 ホール



【卒後研修の感想】

地域医療実習を通して

北野病院 初期研修医 重田 祐衣

北野病院の初期研修医2年目の重田と申します。今回は地域医療実習を1ヶ月間経験し、学んだことや感じたことを書きたいと思います。

地域医療研修を、北野病院では初期研修医2年目で1ヶ月行っています。

研修の目標は、①第一線の診療活動を経験し、その意義を理解する、②患者を取り巻く環境が患者の病態に及ぼす影響を理解し、患者を全人的に診ると共に、その家族とも良好な人間関係を築くことの重要性を学ぶ、③地域における保険・福祉事業について、第一線医療機関の担っている役割と意義を理解する、④地域医師会活動の現状について理解する、⑤病診連携の重要性を認識する、です。

私は9月の1ヶ月間、地域研修を行いました。研修は月曜、大阪天満消化器・内視鏡内科クリニック、火曜、石井クリニック、水曜、吉本診療所、木曜、八杉クリニック、金曜日、本出

診療所でさせていただきました。

すべて大阪市北区にある、内科系のクリニックです。

石井クリニック、吉本診療所では訪問診療の見学もさせていただきました。専門領域としてはすべて内科系のクリニックになります。

1ヶ月間の地域医療研修の内容としては、慢性疾患や発熱の患者の外来診察を見学させていただいたり、初診患者やワクチン接種の患者の問診をさせていただきました。

また、グループホームや個人宅への訪問診療に同席したり、採血の手技を教えていただいたり、腹部エコーや内視鏡検査の勉強をさせていただきました。

地域研修で学んだことが大きく2点あります。

1点目として地域のかかりつけ医として幅広い診療を行っていることを知りました。

クリニックの外来では慢性疾患への治療や、腹痛・頭痛などの急性期疾患への対応、発熱患者へのCOVID-19検査などを行っています。

また予防医療として、COVID-19や小児のワクチンの接種や、企業・学校の健康診断も行っています。

介護の面では、介護保険の認定や、介護施設への定期的な訪問診療、往診を行っていました。

学んだことの2点目として、クリニックごとに特色があるこ

とを実感しました。

私が研修させていただいた施設の中には、内視鏡検査を多く実施しており、消化器疾患を多く診ているクリニック、複数のグループホームへの訪問診療を行っているクリニック、通院できなくなった患者への訪問診療を行っているクリニック、小児科を中心に診療しているクリニックなどがありました。それぞれのクリニックの特色を生かし、地域医療に貢献されているのを感じました。

研修中は地域医療を支える開業医としての心構えなども教えていただきましたが、特に印象に残っている言葉を紹介します。機能性胃腸障害を疑う患者さんに対して「患者さんはみんな不安を抱えてクリニックを受診しているため、どんな訴えでも親身になって聞いて、体に触れて診察することが重要だ。」と教えていただきました。また病気のことだけでなく家族のことや生活についても話す患者さんが多いことを感じました。

「地域の患者さんの中には何世代もクリニックに通っている人もいます。患者さんの生活背景まで知ったうえで関わるのが開業医の役割である。」という話を伺いました。

今回の研修を通し、私はかかりつけ医が地域医療で大きな役割を果たしていると思いました。

かかりつけ医は、患者の日頃の様子や病歴を知っているため必要な診察や治療をスムーズに行えます。

また、ささいな健康状態の変化を相談しやすく、病気の早期発見につながります。さらに必要に応じて適切な専門機関への紹介を行うことができます。かかりつけ医と地域の病院との連携が重要だと実感しました。

医療と地域の関わり方についても考えました。

地域で高齢者が自分らしい生活を継続するために、地域包括ケアシステムというサポート体制が重要であるといわれています。医療、介護、生活支援、介護予防、住まいという5つの要素で構成されています。

この中で地域のかかりつけ医に必要なのは、まずは日常的な医療の管理と重症化の予防です。

次に専門の医療機関との連携、在宅療養と介護との連携が重要になります。研修させていただいたクリニックでは、外来での診察や訪問診療を通して、地域包括ケアシステムを支えておられると感じました。

最後になりますが、COVID-19の流行でお忙しいところ、1ヶ月間ご指導・ご鞭撻いただき、本当にありがとうございます。クリニックでの医療がどのように地域医療を支えておられるか、身をもって学ぶことができました。病院での研修だけでは見えてこない、地域の医療について勉強でき、貴重な経験になりました。

この場を借りて改めて御礼申し上げます。

地域研修を終えて

済生会中津病院 研修医 鶴 田 芽 依

地域研修では大分県日田病院で3週間、澤田内科、兵田クリニック、本出診療所、せお内科クリニック、西木診療所にて実習をさせていただきました。

私が地域研修に伺ったのはコロナの第7波のピークが過ぎた10月でした。

大分に到着して研修を始めようとした矢先、院内クラスターが発生し入院制限、救急ストップという状況になってしまいました。一時は研修ができないかもしれないと不安に感じたのですが、スタッフの方々の努力で3日もしない内に救急も再稼働、病床も限定的ではありますが、再開となりました。地域の中心となる病院としての責任感を肌をもって感じさせていただきました大変貴重な体験となりました。外来中心の研修となった診療科もありましたが、先生方の外来の工夫をたくさん共有していただき、充実した3週間でございました。

クリニックの研修も1週間と短い期間でしたが大変多くを学ばせていただきました。

クリニックでは緊急で行える検査や処置には限りがありません。だからこそ、問診や身体診察など医療の基礎に立ち返るこ

とがどれほど重要かを学びました。鑑別を絞り切らずやみくもに検査を行うのではなく、問診からできるだけ可能性を狭めていく。医師として最強の武器は患者さんとのトークなのだ。再確認できました。救急や総合内科で比較的時間をかけた診察ばかりしてきた私にとってクリニックでの診察は驚くようなスピードで進んで行きました。1つの薬を処方するにしても、効果や副作用はもちろんの事ですが、飲み方、同効薬との比較、費用など考える事は山のようにあり、スピードを求められる環境の中、正しい判断をしていくためにはベースとなる知識の確認、更新が欠かせないと思います。初期研修を終え、専門医に向けての勉強を始めようとするこの時期に自分の課題を再確認することができ、大変貴重な勉強の機会となりました。残り少ない研修医としての時間ではありますが、今回の経験を将来自分の外来にえられる患者さんに還元していけるよう毎日努力していきたいです。

地域研修報告

住友病院 初期研修医2年目 上江田 基 宏

住友病院初期研修医2年目の上江田基宏と申します。令和4年10月15日に開催された指導医、研修医との「交流会」で発表した内容を文章にまとめました。

私は今年の5月に南三陸病院（宮城県本吉郡南三陸町志津川字沼田14-3）、にて地域医療研修させて頂きました。このコロナ禍の最中に地域研修に伺わせて頂いたこと・またご指導ご鞭撻頂けたことに誠に感謝致します。また、この場を借りて地域医療研修にて学んだことを報告させて頂こうと思えます。

南三陸病院では2週間研修させて頂きました。一般病床40床・療養病床50床と住友病院と比べ小規模な病院ですが、南三陸町の中では最大の病院でした。病棟・外来では主に誤嚥性肺炎や慢性心不全などの一般的な内科疾患を主に診療しております。ただその中に紛れて、専門的な治療が必要な患者が紛れていることもあります。癌や緊急手術などの専門的な治療が必要な場合は石巻赤十字病院へ紹介することとなっており、私が担当した患者も鼠径ヘルニアの嵌頓と診断し緊急手術が必要と判断したため、石巻赤十字病院への転院搬送の際に同乗させて頂きました。このように、専門的治療に特化している石巻赤十字

病院と、一般的な内科をメインで診療し、適切なトリアージを行い専門病院に紹介する南三陸病院との住み分けが明確になされており、数少ない医療資源を最大限に活かしていることを実感しました。また、訪問診療や施設への往診にも同行させて頂きました。業務としては定期内服の薬を出したり、体調の変化がないかを確認したりすることがメインなのですが、それ以上に患者さん本人や家族と医療と関係のないことでも気軽にお話をしてるのが印象的でした。加えて、実際に患者の家に訪問することで、どんな福祉サービスや設備が足りていないかを鮮明にわかる事も印象的でした。住友病院では生活環境については直接確認することができず、具体的に何が必要かをイメージしにくいケースが多くあったので、その解決策として訪問を行うことは有用だと感じました。このように入院で診ていた患者をそのまま往診でも診ることにより、患者との距離の近い・より綿密な診療を行っていると感じました。

最後になりましたが、地域医療研修で学んだことは貴重な経験となりました。今後、大阪で医療を行う上で活かそうと思えます。

地域研修報告

住友病院 初期研修医2年目 楠 見 恭 未

住友病院初期研修医2年目の楠見恭未と申します。私は令和4年8月、地域医療研修として、北区の大原クリニック、センブリッククリニック、中村診療所、兵田クリニックにて1ヶ月間研修を致しましたのでご報告させていただきます。

中村診療所では主に上下部内視鏡検査、腹部エコー検査などを見学させていただきました。早朝から検査をされており、鎮静で上下部内視鏡検査をしてから昼前には出勤されるという患者様も多く、ビジネスマンが多い立地に合った医療を提供されていたのが印象的でした。

センブリッククリニックでは、漢方医学と西洋医学を併用した医療を提供していました。舌や脈の見方、ツボなどの普段なじみのない東洋医学の診察を勉強させて頂きました。西洋医学だけではなかなか良くならない患者様が、漢方や鍼灸で魔法のように症状が取れていくのを見て、東洋医学の魅力を実感しました。漢方の選び方も詳しく教えて頂き、住友病院に戻ってから先生への教えを思い出しながら漢方を処方しています。

大原クリニックでは、泌尿器科疾患・皮膚科疾患を中心に勉強させて頂きました。普段は尿検査をオーダーして結果を見る

だけでしたが、顕微鏡で尿沈渣の所見を教えていただき、貴重な経験ができました。

兵田クリニックでは、整形外科疾患の痛みだけでなく、带状疱疹後神経痛や熱傷後の疼痛などの様々な痛みに対し、内服治療や神経ブロック、リハビリなどを併用しながら治療されていました。痛みが和らいで、来院時とは見違えるほどの笑顔で帰られる患者様がたくさんいらっしゃいました。また、痛みを感じにくい注射の仕方も教えて頂き、今後実践していきたいと思えました。

最後になりましたが、新型コロナウイルス感染症の流行下にも関わらず、快く研修を受け入れてくださり、誠にありがとうございます。ご指導頂きました先生方、スタッフの皆様には、この場をお借りして御礼を申し上げます。今後とも何卒宜しくお願いたします。